

## 学校評議員会・学校関係者評価委員会から

平成31年2月28日（木）に第2回学校評議員会が開催されました。学校関係者評価委員会も兼ねており、学校評議員に加え、PTA会長様にご参加をいただきました。



〔各評議員等の方々のご意見やご感想の一部をお知らせします。〕

- 補聴器・人工内耳のマイクロフォン感度が徐々に悪化していくことに、本人は気づきにくい。新規に交換すると「うるさい」という子どもがいる。聴力測定を定期的にしていただけると助かる。
- 信頼関係ができていない大人とでなければ、聴力測定はできない。しかし、子どもとよく関わる人がすると、聞こえているはずだと思いこんでしまい、気づきが遅くなるという悪影響もあるので、複数で聴力測定をしているという話を聞いて素晴らしいと思った。
- 新しく赴任してくる先生方は、手話を覚えたり、使ったりすることを不安に感じるかもしれない。手話が未熟という場合、タブレット、SIRI、UDトークなどの機器を使って先生方と子どもが近づくことが4月の段階でできればいいと思う。
- 地元の学校について保護者と話すと、難聴学級の生徒の障害認識や学習の進め方について難しさがある。現在は聾学校のもつノウハウ、補聴システム、環境調整が主な支援だと思うが、今後は教科学習の進め方や難聴の特性に応じた教材の作り方など、より深い意味でのセンター機能を望む。
- 子どもが育つ過程で「自我の成長」「自尊感情を育む」といった、人としての育ちが危惧されている。家庭内のコミュニケーションが豊かにならないとそれは保証されない。共働きで難しいと思うが、保護者と子どもとのコミュニケーションを密にするような取り組みについて学校全体で考えてほしい。
- 校長先生の話にもあった働き方改革について、学校が時間を上手に使ってほしいと考えている。お願いしたいのが、子どもとの時間を削減することなく、働き方改革をしてほしい。働き方改革をして時間を作って子どもと関わってほしい。
- 学習指導要領が改訂され、教育課程を見直し、改善していく必要がある。聾学校で何を教えるのかをもっと具体的にしていくことが学校の大きな課題である。
- 太田南地区を盛り上げるために、聾学校にも協力していただきたい。地区としてどういう要望をしていくのか、一緒に考えて欲しい。
- 学校評価の結果をHPに掲載してはどうか。

この他にも、貴重なご意見を多数いただきました。学校で改善する必要があるものについては、すでに検討を始めているものもあります。今後も、学校評議員会にてご意見を拝聴し、検討および改善を進めてまいります。